



よしかわ さきこ  
吉川 左紀子

京都大学こころの未来研究  
センター教授(初代センター長)

—あゆみ—

- ・1977年 京都大学教育学部教育心理学  
科卒業
- ・1982年 追手門学院大学院文学部助手
- ・1989年 英国ノッティンガム大学客員  
研究員
- ・1997年 京都大学教育学部助教授
- ・2002年 京都大学大学院教育学研究科  
教授
- ・2007年 京都大学こころの未来研究  
センター初代センター長
- ・2018年 京都大学こころの未来研究  
センター教授

—主な賞歴—

- ・1995年 日本心理学会研究奨励賞
- ・2017年 日本心理学会優秀論文賞  
(共著)

専門分野は認知心理学、研究テーマは「コミュニケーションを支える認知・感情の仕組み」である。

学生時代に、ユング心理学者の故河合隼雄さん(当時京都大学教育学部教授)の講義を聞き、カウンセラーと対話することで深い悩みを持つ人のところが解きほぐされるといふところの不思議さに惹かれ、心理学の道にすすんだ。

「私たちは、自分のところは自分が一番よくわかっていると何となく信じているのではないのでしょうか。しかし、ところについての思い込みや誤解は意外に多く、心理実験や大規模調査によるデータ分析、脳科学の手法などさまざまな方法を駆使することで、ところという見えないものの特徴が少しずつ明らかになるところが心理学の面白さ。」

2007年4月に設立された「京都大学こころの未来研究センター」では、2018年3月までの11年間、初代センター長を務めた。心理学をはじめ、神経生理学から宗教学にいたるまで、幅広い分野の研究者が集まり、ところに関する研究を連携して推進する研究組織は他に類がなく、先駆的でユニークなものである。それゆえ、センターの設立後数年は組織としての方向性を見つけることに苦勞したという。

「研究者それぞれにところに対する見方や研究手法が異なり、一つの目標に向かって全員で研究を進めるのは難しかった。そこで『ところとは何か』という大きな問いに向かって一人ひとりが自由にプロジェクトに取り組み、それをセンター全体で応援し、研究の成果を広く社会に向けて発信するという方針をとった。その多様性がセンターの個性になった」と語る。

出身は北海道。四季折々に美しい姿を見せ、遷都から1200年以上にもわたる歴史の物語に身近に触れられるところに京都の魅力を感じるという。

後進の研究者へは、「自分の心の中に研究のシーズ(種)となるものがあるはず。流行に流されず、自分が本当に好きなこと、面白いと思うことに知的好奇心を捧げてほしい」とエールを送る。